

市における合理的配慮事例の報告について

市における合理的配慮事例（令和元年度報告分）

- (1) 調査月・・・令和元年9月（上期）、令和2年3月（下期）
- (2) 調査結果・・・17 所属から 43 件の事例報告（内容重複するものを含む）
- (3) 合理的配慮事例（報告事例のうち主なもの）

場面	障がい種別	事 例 内 容
受付・窓口	視覚障がい	○小さい文字が読みにくい方に、メモ用紙に大きく文字を書いて提示しながら説明をした。 ○申請書類の記載内容について口頭で説明。署名が必要であるため、同行の親族に代筆していただく旨を説明し、本人の了解を得て代筆してもらった。
	聴覚障がい	○必要な手続きや必要書類について、案内文書と筆談により本人に伝えた。
	肢体不自由	○税証明が必要な車いす利用者の方が来庁されたため、2 階の課税課を案内するのではなく、担当職員を呼び、1 階の窓口サービス課の窓口で対応した。 ○左半身麻痺により、かばんから必要なものを出し入れするのが困難な方であったため、車いすにかけてあるかばんから書類や印鑑の出し入れを介助した。
	精神障がい	○窓口で複数の書類を記入することが精神的に辛く、申請書一式を自宅に持ち帰りたいと申し出があったため、書類の説明をして、どこに記入するかを分かるようにして書類を渡し、自宅で記入して提出してもらうようにした。
移動・誘導	肢体不自由	○足がやや不自由な方から展示室内を歩きながらの鑑賞が困難であるとの申し出があったため、車いすを貸して職員が移動を手伝った。また、展示作品の解説時には、通常よりゆっくりとお客様を誘導するなど、車いす利用の方も同じように解説を聞くことができるように配慮した。
講演会・イベント	肢体不自由	○多人数が参加するイベント開催時に、臨時の身体障がい者用駐車場を 10 台分設けて、駐車場誘導係に申し出があった場合には案内するようにした。
その他	視覚障がい	○水道検針票に、スマートフォンで読み取りが可能な音声コード「Uni-Voice（ユニボイス）」の QR コードを掲載した。日本語のほか、ポルトガル語と英語でも読み上げを設定し、在住外国人の方にも配慮した。
	肢体不自由	○電動歩行器で図書館に来られたが、書棚の高い位置にある本を取ることは困難であったため、職員が付き添い、希望される本を手渡しした。
	知的障がい	○児童の保護者が申請手続きの方法を理解することが難しかったため、相談員が保護者と申請窓口に同行し手続きをした。